## AAR News



AARが運営するコミュニティセンターでクリスマスと新年を祝うウクライナ難民の親子たち=モルドバの首都キシナウ

特集:ウクライナ危機2年

## 故郷追われた人々の希望をつなぐ

## AAR ニュース 2024 冬号

**p2-5** 特集:ウクライナ危機2年(ウクライナ・モルドバ報告)

p6-7 活動レポート:モロッコ地震緊急支援、「世界盲人連合」地域協議会

ザンビア元難民定住支援、駐在員だより:ウガンダ

p8-9 特別インタビュー:パックン (パトリック・ハーランさん=タレント/大学講師)

p10-11 インフォメーション

p12 スタッフ紹介:田丸 敬一朗(東京事務局 支援事業部)







ウクライナ人道支援の現場

難民支援も始まりました。

と連携した南部2州での避

ます。新たに現地協力団体

ロシア軍占領下の村 恐怖の連続だった」

テムさん (36歳) とパ 根に位置するヘルソン州。 に併合したクリミア半島の付け ユーゲニアさん (40歳) 口 シアが2014 年に一方 的

家を一

軒一軒回っては住民を尋

するのです。

私も殴られたり

員や武器を隠していない

か、

「ロシア兵がウクライナの戦

の

しました。

酔っ払ったロシア兵

タンガンを押し付けられたり

開戦 あった村から南部の港湾都 以 来 ア 軍 占 下

サに逃れて来ました。

ロシア ウクライナ ミコライウ州 モルドバ キシナウ クリミア半島

事務所を拠点として、難民

内避難民支援を続けてい

F

バの首都キシナウの現地

ます。AARは開戦直後に緊

急支援を開始し、隣国モル

多くの命が日々失われてい

態が終息する兆しは見えず、

始まって間もなく2年、

ロシアによるウクライナ軍

侵攻が2022年2月に



ヽルソン州からオデーサに 避難したアルテムさん(左) とユーゲニアさん

んは 寒さと恐怖に震えながら冬を越し ました」と話します。 テムさん。 毎日が恐怖の連 対に目を合わせないようにして、 は何をするか分からないので、 電気もない真っ暗な部屋で、 窓ガラスが全部割れてしま 車椅子のユーゲニアさ |続でした」とアル 絶

食料は「近隣の人たちと融通

時、 と徒 合ったり、 なくなり、 建材が崩れてドアが開か 時に燃え上がりました。 焼かれ、 帰りは 明け方5時に家を出ると 域を通り抜けるために、 で、 サに搬送されて来ました。 てヘルソン州からオデー 口 イリーナさん(37歳) した」(アルテムさん)。 たりしました。 た占領されていない町ま 夜ベッドに入ろうとした 2人の娘の母親である シア軍の砲撃で自宅を 爆発が起きて家が瞬 何時間もかけてバス 歩 夜9時頃になりま で買い出しに行っ 母子とも負傷し 数十キロ離れ 近所の人たち 危険な地 は

> した」。 女は今も医療施設での治療とリ され、特に重傷だった14歳の長 受けた後、 てくれましたが、娘たちはひど が私と娘たちを何とか助け出 い火傷を負い、私もけがをしま ハビリが続いています。 地元の病院で緊急処置 オデーサの病院 に移

(74 歳) もあって常に健康に不安を抱えて は他に頼れる相手もおらず、持病 で生活しているため、 した息子たちは以前からロシア側 いるよ」とオレクシーさん。成人 古着などをもらって何とかやって シーさん (72歳) ルドメラさん い、ここの人たちに食材や毛布、 した。「洪水で何もかも失ってしま ソン州から命からがら避難しま による大洪水に見舞われ、ヘル に起きたドニプロ川のダム破壊 民滞在施設で暮らすオレク ミコライウ州コルレヴォの避 夫婦は、 2023年6月 高齢の二 人

ミコライウ両州に滞在する国内避 Tenth of April」(TTA/本部 オデーサ)と連携して、 A ARは現地協力団体 および地域住民(障がい者 ヘルソン、 The

います。

態が長期化する中、

月分)と食料配付(2カ月分) ています。 れたウクライナの人々を支え続け 火を逃れて避難生活を余儀なくさ 行う支援活動を開始しました。 人当たり約1万5000円×3カ 高齢者世帯など)に現金給付 家を失い、  $\widehat{1}$ を 戦 事

## オデーサの世界遺産 歴史地区にミサイル

心の拠りどころ。 「この大聖堂はオデーサ市民の それを壊すなん



ミサイル攻撃で大破した世界遺産「オデーサ歴史地区」のウクライナ正教大聖堂

لح ネ 1 L 危 か 司 ス 月 61 軍 コ 時 に 街 遺 の 並 港 才 攻 2 撃 湾 戦 遺 デ で に指定され 火で 施 産 が 1 知 繰り 設 サ ら 失わ 緊急登 など 歴史 返さ を まし 2 れ 地 狙 か 0 区 つ さ 2 ね た が

デ 0 栄

サ

更的 わ

建造物が

口

にミサイ

ルの直撃

すを受

地

区にある大聖堂

が

々 大

に

訴 堂

帝政口

T

時

代

€ √ る ユ

聖

で、

高

齢

0

女

性

た

ち

が顕

18

世

の

ŋ

に

建

設

さ 建

れ ち並

たオ

びに

面

た国

際港湾都

市 だ

才

1

サ

年 美

えるウクライナ正教会

- 救 デ

世

主

て、

とん

で

b

黒

暮ら を直 けて大破したほ を受けています。 ども 、々を支え続けてい 化 破 命 ح 死 建造物や美術館が € √ 傷者が出 壊し、 視 す ま まで傷付けようとし を の を含む ず。 私 戦 たちが ウクラ 平 貴重 争 7 和 ځ な日 々 ₹ 2 般 は か、 な 、ます。 多く また、 イ の 0 市 歴 生活 良 ナ 現 本 貴 史 0 実 に 重 0)

を

AARのウクライナ人道支援 (2022年3月~/一部事業は終了) -

ウクライナ

## ウクライナ 国内避難民支援

東京事務局兼関西担当

中坪 央暁

が

改めて

求め

5

ウクライナ西部に逃れた国 内避難民と地域住民にポー ランドから食料や衣類、医 薬品、家電などを届けて避 難生活を支えました。



## 地雷・不発弾対策

英国の地雷除去団体ヘイ ロー・トラストと連携し、 地域住民の生活や帰還を妨 げる地雷・不発弾の除去作 業を進めています。



## ウクライナ 障がい者支援

知的・身体障がい者3団体 への資金提供を通じて活動 をサポートするとともに、 発電機や大型家電の供与、 施設の改修などを実施。



## モルドバ 難民への物資提供

首都キシナウや北部地域に 滞在するウクライナ難民 に、食事や食材、生活用 品、越冬用燃料などを現地 協力団体とともに提供。



## モルドバ 交流施設の運営

ウクライナ難民とモルドバ住 民の子どもたちが交流する 活動施設、多彩なプログラム を楽しめるコミュニティセン ターを運営しています。



## 日本 来日避難民支援

日本に滞在するウクライナ避 難民の当面の生活を支える 支援金の給付(終了)、就 学・就労などの生活相談を 行っています。



## モルドバの難民交流センター 私たちの心の拠りどころです」

ターを現地協力団体とともに運営 元住民が交流するコミュニティセン 3年7月以降、 す。AARは首都キシナウで202 万人を超える難民が滞在していま ウクライナの隣国モルドバには10 多くの人々が多彩なプログラム ウクライナ難民と地

駐し、難民のニーズを丁寧に聞 クラブ活動です。ウクライナ・オ なのは、利用者自身が立ち上げた していますが、何と言っても人気 て生活支援や医療サービスを提供 を楽しんでいます。 同センターには社会福祉士が常

デーサ州出身のヴァ

す。 仲間たちと取り組む 楽しめるように工夫 ルーマニア語で劇を ても楽しみ。ロシア 喜ぶ顔を見るのがと ヴァレンティーナさ と張り切っていま 在施設で上演しよう 元の幼稚園や難民滞 色とりどりの動物の 人形劇クラブでは、 レンティーナさんが んは「子どもたちが 人形を手作りし、地 露して、 も凝っていて、 ウクライナ語、 音楽やステージ みんなが

(右端)

学の授業はほとんどルーマニア語 く時間が私にとってとても大切な が、このセンターでほっと一息つ なので、ついていくのが大変です 勉強をしてくれるのが嬉しい。大 は、「子どもたちが楽しみながら ために学んでいるアニシアさん シナウの大学で数学の教員になる 数クラブ」で活動しています。キ 小学生に算数の勉強を教える「算 ユースクラブのメンバーとして、 ニシアさんは、10代を中心とした ハルキウ州出身の大学2年生ア

ろ」であると同時に、難民を支え た」との声が寄せられました。 詳しく知ることができて良か ら「子どもの健康に関する情報を 発ワークショップでは、保護者か る難民の親子向けの予防接種の啓 を招いてのワークショップやイベ 時間を過ごしています。外部講 が初心者に教えながら心穏やかな ブなどがあり、それぞれ得意な人 ントも好評で、 祖国を離れて暮らす人々にとっ 他にも手芸クラブ、チェスクラ したい」と話します。

算数クラブで子どもたちを教えるア シアさん

同センターは「心の拠りどこ 国連機関職員によ 師

くなっています。

困難な状況にあって、人々が集う す。ウクライナへの早期の帰還

[センターの役割はますます大き

ティアたちの交流の場として、 ようとするモルドバ市民やボラン

ζ )

つも温かい雰囲気に包まれていま

が

人形劇クラブのメンバ

キシナウ(モルドバ)事務所

# モロッコ地震被災者支援

# 冬に備えテント・防寒着配付



年9月上旬に発生した大地震 北アフリカのモロッコで2023 の被

を配 月下旬、 災地で、AARは現地協力団体2団 エコル」とともに緊急避難用テント から派遣したAAR職員2人が9 ています。 体と連携して被災者支援を実施し 付 したほか、 現地NGO「アミス・デ・ 日本およびタジキスタン 家を失った

> めています。 ンプのトイレ150基の建設を進

加え、 とは、 震被災者支援へのご協力をお願 災後外部からの支援がいっさい 申 れました。引き続き、 冬を乗り切りたい」との声が聞か 資を受け取って安心した。 くれなかったが、こうして支援物 者からは「今まで誰も助けに来て キット117セットを届けました。 収容人数10人の防水テント22張に しい寒さと雪に見舞われるため、 山脈の山間部の村々は、冬場は厳 最も大きな被害を受けたアトラス いていなかった集落もあり、 ŀ ブス・ファウンデーション 越冬支援を行った地域には、 レス、毛布、衛生用品などを配付 同じく現地NGO「リフ・トライ し上げます 食料やテント、ベッド、 防寒着と靴、 毛布の越冬用 モロッコ R T F 何とか 被災 届 地

は随時ホームページでご報告いたします。 寄せいただいています。支援活動の様子 紛争緊急支援にもたくさんのご寄付をお アフガニスタン地震緊急支援、 スーダン

被災者が身を寄せる避難

民キ

ヤ

## 視覚障がい者の社会参加促進 世界盲人会議」 地域会合に参加

Assembly する伊藤

際組織 席し、 藤美洋が参加しました。 議が繰り広げられました。 14カ国・地域から約300 美智子理事、 ケット県で開催され、AARの田 総会が11月26~29日、 のアジア太平洋地域協議会の中期 の視覚障がい者の声を代弁する 朗(いずれも障がい当事者)、 1 9 共生社会を目指す活発 0 「世界盲人連合 カ国・2億530 東京事務局の田 タイ・プー  $\widehat{\mathbf{W}}$   $\widehat{\mathbf{B}}$   $\widehat{\mathbf{U}}$ 会合には 人が 0 な論 九敬 万 畑

全体会議では、 I C T (情報 通



本会議に出席した(左から)AAR の伊藤、田畑理事、田丸

て、 ネルディスカッションでは、 ١ バイス (情報端末や周辺機器) 紹介しました。 ンドレイジングの取り組みについ の後の分科会では、 きかけが重要」と訴えたほか、 意志を持って人々の共感を呼ぶ働 が「共生社会を創るには、 されました。 手に入れるための資金の確保や、 信技術) い者の生活を支えるさまざまなデ レーニングの重要性などが指 具体的事例を盛り込みなが の発達に伴い、 組織運営に関する AARのファ 視覚障 情熱と 伊藤 を そ

推進などが明記されました。 したスマートシティ 条約などの実施、 を全会一致で採択し、 最終日には「プーケット宣 障がい者に配 **%** 障害者権利 構 想 言 0 慮

## 難民支援

# ザンビア・元難民定住支援

# 地域住民に学びの機会を提供

参加者オデットさん

治安の悪化のために母国コ

ビア 域住民の教育機会の拡大に取り 向けの英語教育 をして の建 コミュ A 北西部 A R 難民とザンビ は ニティ 2 にあるメヘバ難民居住 0 員 現在は を創るため  $\frac{1}{7}$ などを通 研 修 年以 中等教育施 ア人がとも の支援 地

仕事に就 初歩的な英語しか 難民 将来は援助 きれ 知りませんで A A R が 昨 の 子どもた 団 体

5月から運営している英語教室の で話してくれたのは、 ちを助けられ で上達しました。 したが、教室で文法や会話を学ん

オデットさん(右)に話を聞くメヘバ事務所の兼松結

50

人を超える参加

トさんのように高 たこともありました。

をサポ

事

け

ること、

そして

が活

の場を得て地域

うようになり b 妹か 民 続けたいと思います」。 13 を与えてくれ でした。 ンジニアリングを学ぶ大学2年 なった時、オデットさんは せる仕 ます。 たちを支える仕事を 10 主共和国を去らざるを得 人の世 「 ここに は P C これからもしっ 事 話 は あり た A A R をするうち ませ 教育 したい スキ に感謝して かり P 0 学び と思 を生 C 生

ます。 室は週2回のコースが5クラスあり の英語 ザンビアで仕事に就くには たくさんの機会につながる大き 歩になります。AARの英語 多いときには、 がとても重要です。 25 人

語

は

していくことを期待しています。 女たちが能力を生か ートしていることは誇 い志を持った若者 者が詰 当会がオデッ 有能 全体 の し め た仕 教 な人 か 室

## 庭で野菜作り始めました!@ウガンダ 駐在員だより

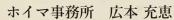


トウモロコシの世話をするホイマ事務所スタッフ

こんにちは!2023年6月からウガンダに駐在している広本です。東ア フリカのウガンダは「アフリカの真珠」と言われるほど、水と緑に恵まれ た自然豊かな国です。そんなウガンダでの私のリラックス方法は、食べ たい物を作って、毎日エネルギーチャージをすることです。限られた環 境の中ではありますが、タイ料理や日本料理、パスタを作ったり、新鮮 な果物をジュースにしたりして、毎日の食事を楽しんでいます。

コンゴ民主共和国との国境近くにある活動地のホイマでは、欲しい 食材がなかなか手に入らないため、首都カンパラまで4時間かけて買い 出しに行くこともあります。しかし、カンパラに行く機会はそれほど多く はありません。そこで、事務所の敷地に野菜を植えることにしました。

野菜作りがそんなに簡単にできるの?と思われるかもしれませんが、ウガンダは雨 が多いため、水やりをする必要がありません。しっかり間引きさえすれば、太陽と雨 で野菜が自然に育つ環境なのです。そして、多くのウガンダ人は農業経験があるた め、ウガンダ人スタッフに気軽に野菜の作り方を教わることができます。先日、同僚 と一緒にトマト、ピーマン、きゅうり、ネギ、ほうれん草、バジル、ミントを植えました。 野菜の成長を毎日観察することが、最近の楽しみです。





ミントの苗を植える広本

## Special Interview

## |想主義を捨てる 想を持って

界をどう見て、どうポジティブな自分を保っているのか聞きま は、厳しい現実に前向きでユーモラスに向き合う姿勢。今の世 の貧困状況を取材したりと幅広く活躍しています。共通するの 大学で国際関係理論やコミュニケーション学を教えたり、日本 ハーランさん/53歳) お笑いコンビ「パックンマックン」のパックン(パトリック・ は、報道番組のコメンテーターのほか、 〈聞き手・AAR東京事務局 太田 阿利佐

## ことをする われわれは偽善者。 でもできる

ロシアによるウクライナ軍事侵攻、

の時、 じていますか。 僕たちは偽善者じゃないのか」って。 時にはおいしいものを食べている。そ 話しながら、車に乗って、映画を観て、 です。「僕らは弱者を救済すべきだと こうあるべき、自分はこうでなきゃだ とにしたんです。青春時代って、人は スから目を背けたくなります。 パレスチナ人道危機など、 のおカネを全部貧しい人たちのために 高校の先生にかみついたことがあるん めだと理想主義になりがちでしょう。 [せばいいのに、それをやっていない 確かにつらいし難しい。 ある意味、 「その通り、 理想主義を捨てるこ われわれは偽善 時々ニュー 僕は高校生 どう感

ラン

聞いて、少し気が楽になりました。 け入れられなくなるよ」。その言葉を 人もいなくなるし、自分で自分を受 偽善者を全員否定したら、仲間が一 頑張れるようにしなければならない。 れるのは仕方がない、その通りだから。 ための妥協も必要だ。偽善者と呼 でもそのことを受け入れて継続的に ば

## 世界は白黒つかない も

## る」ですか? 理想的で な い も のを受け 入れ

くおカネや、服を買うおカネはほと けれど、友だちとスポーツ観 をしていました。家や食べ物はある ら大学に入るまで8年間、 書)にも書きましたが、10歳の んどない、いわゆる「相対的貧困」です。 い暮らしでした。『逆境力』(SB新 僕は両親が離婚し、 幼 い頃は 新聞 戦に 頃か 配 貧 達

者だ」と。「でもできることをやりな

自分の生活、

家族、

精神を守る

母は仕事で留守がちで、 する声が頭の中にあります。 その頃は「お金持ちの大人が僕を助け しくて電話の時報を聞いていました。 た自分を、子どもの頃の自分が非難 今は「お金持ちの大人」の立場になっ てくれないのはひどい」と怒っていた。 人の声が恋

界の色々を受け入れるマインドを若 い頃は持てなかった。 開発はやめない。白黒つかない、 ほとんど。だからと言って治療薬の という特効薬が見付からないものが ないと、 ない。欠陥のある状況でも受け入れ 持ちながらも理想主義は捨てる。 いって否定や拒絶はしない。 指すのはいいが、そうでないからと 社会にも完璧を求めない。 きることをやるしかない。 世界の問題は「こうすれば治る」 でもそんな自分を受け入れて、 理想主義だと何ひとつ満足でき 心の平穏は得られません。 今は少し持て 自分にも、 完璧を目



でもどちらも主義にはしない。実主義も嫌。現実も見る、理想も見る、主義になると言われますが、僕は現たと思います。よく年をとると現実るようになって、頑張れるようになってもどちらも主義にはしない。

## 論が目立ちます。 ―― 最近は白黒つける、是か非かの議

インターネット時代になってその常識に光が当たる。型破りの考え方、常識に光が当たる。型破りの考え方、は満に光が当たる。型破りの考え方、は対に短い発言時間しかないメディンでは、断言したほうが「いいね」がように短い発言時間しかないメディーでは、断言したほうが「いいね」がように短い発言時間しかないメディーでは、断言したほうが「いいね」がように短い発言時間しかないメディーが、ある。と言われてしまう。

## ウクライナを忘れないで

## しにくい状況です。 ― 戦争も、白黒つけて「悪い」と断定

言うと、アフガニスタン戦争やイラク「先の戦争(The war)」とアメリカで分からない日本国民はいない。でもこと。先の戦争といえば、どの戦争かます。そのひとつが平和大国である僕、日本は非常に良い国だと思い

戦争、ベトナム、朝鮮、第二次世界大 関がないかと言ったら、そうとも言い 切れない。残念なことに、もしかした ら必要な戦争も世界にはあるかも知 ら必要な戦争も世界にはあるかも知 ら必要な戦争も世界にはあるかも知 がない。ウクライナのような軍事侵 なを受けた国には、対抗する権利が あるのではないですか。



ギターを手にポーズを決める子ども時代の パックン(本人提供)

の難民問題がかすみつつあ がかすみつつあ がかすみつつあ がックン(本人提供)

## ります。 やその他の難民問題がかすみつつあ ―衝撃的なガザ侵攻で、ウクライナ

思考がおろそかになる。 思考がおろそかになる。 思考がおろそかになる。 と、その帯域 を誰かが使うと、その帯域 を説しい。人間の能力も同じだと思うんでい。人間の能力も同じだと思うんでい。 は意とか集中とか、思考とかは を記かの何かに対する注意、集中、 を説の何かに対する注意、集中、 を記しい。 ので、何かにとられてします。 で、何かにとられてします。 で、何かにとられてします。 を説のある周波

難民問題もそうです。

並民問題もそうです。

が大変だけれど、日本政府にはウナが大変だけれど、日本政府にはウナが大変だけれど、日本政府にはウリライナを忘れてほしくない。先進国は豊かだから、さまざまな問題にしたが大変だけれど、日本政府がその問題を完かれる。

## 完璧じゃなくても一歩を

## a。 · 子どもための活動を支援されていま

『逆境力』で紹介したNPO法人「キッズドア」(東京都)は、子どもの学習支援団体。放課後に温かいおきるようにする。それだけで人生がきるようにする。それだけで人生が変わると取材して分かりました。他変わると取材して分かりました。他変わると取材して分かりました。他の団体にも寄付をしています。自分の団体にも寄付をしています。自分の対なと思っています。世界の全員を助けることはできないけど、何人かも若い頃にいろんな人に救われたのも若い頃にいろんな人に対われたのも若い頃にいると思います。と思います。

も、今よりはいい。ならばまず一歩let the perfect be the enemy of the good." = 「完璧が良いことの敵にならないようにしろ」。完璧ではなくている。

も、ずっといい。を踏み出そう。その一歩がないより

## 伝えたいことは。 ― AARのような「支援する側」に

自己PRを忘れないでほしい。支援活動を支える資金、支援者を集めることに力を入れてほしい。日本のることに力を入れてほしい。日本のはすごい大切な事業のパートナーなはすごい大切な事業のパートナーなんです」って、粘り強く訴えてほしい。支

## だまだ」と…。 ― でもパックンも何度か「自分はま

僕は謙虚を目指しているんですけど、実は「俺すごいぞ」と常に思ってらに頑張る。例えば「○○ができていうに頑張る。例えば「○○ができているからすごい」ではなく、「今日も頑まったからすごい」でいい。結果じゃなくて、プロセスをほめる。何かができたというのは結果で、いろんな要きたというのは結果で、いろんな要きたというのは結果で、いろんな要きたというのは結果で、いろんな要きたというのは結果で、いろんな要きたというのは結果で、いろんな要きたというのは結果で、いろんな要さるととコントロールしたことをできることをコントロールしたことをいるが、活動を続けていってほしいです。

## 相次ぐ人道危機へのご支援

2022年に始まったウクライナ危機や2023年2月のトルコ地震、9月のモロッコ地震への支援に、たくさんの個人と企業・団体の皆さまからご寄付をお寄せいただいています。ご支援に御礼申し上げます。個人情報に配慮し、100万円以上をお寄せいただいた企業・団体のみご紹介させていただきます。

## ウクライナ人道支援

NPO法人アース エイド ソサエティ

## トルコ地震

NPO法人アース エイド ソサエティ 公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団

## モロッコ地震

全国友の会

(2023年11月15日時点、50音順)

## 2023 冬募金 命をつなぐ支援を届ける

11月にお送りした冬募金のお願いに対し、皆さまから温かいお気持ちとメッセージを多数お寄せいただいております。心より御礼申し上げます。AARは長引く戦火を逃れて暮らすウクライナの人々、厳冬のモロッコ



モロッコ地震の被災地で テント暮らしをする親子

地震の被災地で避難生活を送る人々など、過酷な状況 に置かれた方々の命をつなぐ支援を届けています。引き 続きのお力添えをお願い申し上げます。

## 3/20 チャリティコンサート 『Quartet Festival Ⅱ』のご案内

AAR創立45周年に合わせて企画したチャリティコンサート『Quartet Festival II』のチケットを好評発売中です。東京クヮルテットで活躍した原田幸一郎さん、池田菊衛さん、磯村和秀さんはじめ、日本の室内楽シーンを彩る皆さまにご出演いただきます。カルテットの魅力に満ちた時間を、どうぞお聴き逃しなく。



日時: 2024年3月20日(水・祝)13:30~

会 場 : 紀尾井ホール

(東京都千代田区紀尾井町6-5)

※詳細は同封のチラシ、またはHPをご覧ください



## まるごとプロジェクト募金 学校のトイレ設置に 279 万円のご寄付

AARが世界各地で実施する活動の資金を一括でご支援いただく「まるごとプロジェクト募金2023」。ケニアの難民キャンプ・居住地にある小学校でのトイレ建設のため、150万円4口の募集に対し、最後の1口が不足していました。そこで金額に関わらず支援者の皆さんにお願いしたところ、多くの方々にご賛同いただき、11月末までに目標額を大きく上回る279万7,094円(2口分)が集まりました。温かいご支援に御礼申し上げます。ご寄付を活用してトイレ建設を進めており、4月頃完成する予定です。



難民居住地の子どもたちと AAR の中川梨緒奈

まるごとプロジェクト募金では現在、以下支援活動のご寄付を募っています。ご興味のある方は、東京事務局までお問い合わせください。

- ・ウガンダでの小学校建設
- ・ミャンマーでの障がい者向け職業訓練校の修繕
- ・カンボジアでの障がい児教育のための教員研修

## デヴィ夫人よりウクライナ支援と トルコ地震被災者支援にご寄付

NPO法人アース エイド ソサエティ(代表=デヴィ・スカルノ夫人)主催のチャリティパーティーが9月21日、東京都内で開かれ、「ウクライナの人々、トルコ地震の被災者のために役立ててほしい」とAARにご寄付いただきました。当日はAAR副会長の加藤タキからデヴィ夫人に感謝状をお渡ししました。デヴィ夫人は当会の活動に寄せて20年以上にわたり多大なご支援をくださっています。



デヴィ夫人(左)にAAR 副会長の加藤タキから 感謝状をお渡ししました

## 写真展:トルコ地震から1年「被災地は今」

トルコ南東部で2023年2月、大地震が発生し、隣国シリアと合わせて5万7,000人以上が亡くなる事態となりました。AARは発災直後に緊急支援を開始し、のべ8万9,000



人に食料や衛生用品などを届けたほか、現在も生活再建を支援しています。地震の発生から1年が経つ今年2月、被災地の状況をお伝えする写真展を開催します。

トルコ地震緊急支援にご寄付いただいた森井紙器工業株式会社(新潟県燕市)、会場をご提供いただく株式会社チェリーランドさがえ(山形県寒河江市)、当会を長年ご支援くださっている株式会社モンベル(大阪市)のご協力のもと、被災地を訪れたフォトジャーナリスト川畑嘉文氏とAAR職員が撮影した写真を多数展示します。

## さくらんぼ会館

(山形県寒河江市大字八鍬字川原919-6)

日 時:2024年1月20日(土)~22日(月) 10:00~17:00(最終日は13時まで)

川畑氏のトークイベント: 1月20日(土) 14:00~15:00

## モンベル御徒町店

(東京都台東区上野3-22-6 コムテラス御徒町)

日 時:2024年2月2日(金)~7日(水)

10:00~20:00 (初日は15時から、最終日は15時まで)

川畑氏のトークイベント: 2月4日(日) 14:00~15:00

どちらも入場料無料。事前のお申し込みは不要です。 お気軽にお越しください。

## チョコレートを買って難民居住地の子ども たちの学びを応援してください。 ウガンダキャンペーン (2024/1/1 ~ 2/15)

期間中にチャリティチョコレートをお買い上げいただくと、1箱あたりの純益200円のうち100円をウガンダの難民居住地の子どもたちの文房具支援に活用します。

チョコレート6箱で、1人に新学期に必要な文房具 (ノートや鉛筆、消しゴムなど)を届けることができます。詳細は同封のチラシまたはホームページをご覧ください。



、お申し込みはこちら /



## 書き損じハガキ・切手キャンペーン

AARは書き損じハガキや未使 用切手を活用し、支援として届け ています。当会が1994年に設立 したカンボジアの車いす工房 AAR、WCD (2006年に現地NGO



として独立)では、車いすや歩行器を貧困家庭に無償で提供するなどして、障がい者の社会参加を促進しています。しかし現在、この車いす工房は厳しい財政状況に直面しています。より多くの障がい者を支えるために、ご家庭にある書き損じハガキ・切手をAARにお送りください。詳細は同封のチラシをご覧ください。

## マンスリーサポーターの皆さまと親睦昼食会を開催

AARは10月14日、日頃のご支援への感謝を込めて、マンスリーサポーターの皆さまとの親睦昼食会を開催しました。コロナ禍を経て5年ぶりの開催となり、55人の皆さまがご参加くださいました。

会長の長有紀枝からの挨拶に続き、ベトナム難民として約40年前に来日した森スワンさん(AAR常任理事)から、日本社会になじむまでの苦労やAARの支援で救われたことなどをお話しいただきました。

AAR職員による講話では、アフガニスタン人職員



AAR 役職員と歓談する支援者の皆さま

がタリバン政権下で身の危険を感じて2021年に来日したことや、これまでの生活について日本語で発表。キシナウ事務所(モルドバ)駐在員の東マリ子は、ウクライナ難民支援について、皆さまからのご支援で実施した活動の成果、現地から届いた感謝の言葉などをお伝えしました。

食事は障がい福祉事業所「かがやけ第2共同作業所」(東京都葛飾区)のお弁当をご用意。テーブルでの歓談も盛り上がり、「支援者同士で交流できて有意義だった」「少しずつでも長く支援していきたい」といった声が聞かれました。お寄せいただいた皆さまのご意見を真摯に受け止め、今後の活動に生かしてまいります。

## スタッフ紹介

## 障がい者だからこそ できる仕事がある

東京事務局支援事業部 田丸敬一朗 TAMARU Keiichiro



今回は支援事業部の田丸敬一朗です。全盲で入職1年 目、国際派でバリバリ仕事をこなしています。

## - AARに入るまでの歩みは。

福岡県直方市で生まれ、小学校入学時には「全盲児が 普通小学校に進学するのは九州初」とニュースになりました。でも本人としては、保育園の友だちと一緒に通う先が 小学校になるだけで、その意義は全く分からず(笑)。自 転車に乗るのが好きな普通の子でしたね。

大学卒業後カナダに6年間留学し、移民や難民を支援するソーシャルワークを学びました。帰国後は障がい当事者による国際NGO「障害者インターナショナル(DPI)」の日本支部や民間企業に勤め、2022年末にAARに入職。現在は障がい者支援や日本に滞在する難民・避難民の方の相談対応、国際理解教育事業などの担当です。

## - 入職してからのAARの印象は。

海外でこれほど広範かつ長期的に障がい者支援を続けていることに大変驚きました。僕はDPIで国際関係も担当していたのに、ほとんど知らなかった。日本の障がい者の多くも知らないと思います。こうした活動を多くの人に知ってもらう企画をやっていきたいですね。

## 一 意欲的ですね。他にも挑戦したいことは。

海外の事業地にも行ってみたいし、受益者や現地職員 に会ってみたい。ファンドレイジングも勉強中です。視覚 障がい者は、例えばコピー取りなどの軽作業は苦手ですが、翻訳とか国際理解教育とか、個人の能力に合った仕事をする分には問題はありません。インクルーシブな社会を作っていくためには、障がい者だからこそできる仕事もあります。

## 一先頃参加した「世界盲人連合」の会議はどうでしたか。

例えば東ティモールは独立後、障がい者の教育に注力 しようにも、そもそも本がないとか、地域ごとに歴史と事 情、課題があって興味深かったです。(P6参照)



タイで開かれた「世界盲人連合」会合で

## — 2023年はどんな年でしたか。

阪神タイガースの優勝で、最高に幸せな1年でした。デパ 地下でちょっと豪華なお総菜を買って、やはり阪神ファン の妻と祝杯をあげました。僕の趣味は阪神と読書と落語な んですが、38年ぶりの阪神日本一は格別の喜びでした。

## 編集部より

新年おめでとうございます。昨年はウクライナ人道危機が続く中、世界各地で武力衝突や大規模災害が多発し、多くの人々が苦難に 直面した1年でした。今年は人々の笑顔が戻る年になることを切に願いながら、支援を届けてまいります。

## **AAR News**

2024 Winter NO.485

特定非営利活動法人 **難 民 を 助 ける 会** 〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 7F Tel.03-5423-4511 Fax.03-5423-4450 www.aarjapan.gr.jp

